

第3回下野市総合計画審議会 会議録

日 時 平成27年7月17日（金） 午後1時30分～3時30分
場 所 下野市役所国分寺庁舎 304会議室
出席委員 中村祐司会長、大島昌弘委員、塚原良子委員、磯辺香代委員、高田憲一委員、山口富男委員、永山茂夫委員、川俣一由委員、鱒渕泰子委員、小幡洋子委員、高山信夫委員、大塚裕明委員、佐間田香委員、山口貴明委員、鈴木祐孝委員、前原保彦委員、小島恒夫委員、島田実委員
欠席委員 三橋明美委員、江田俊夫委員、高山和典委員、赤穂敏広委員、
出席者 板橋副市長
事務局 落合総合政策部長、星野総合政策課長、小谷野課長補佐、古口主幹、坂巻副主幹、館野主事
傍聴者 なし

○次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 前回（第2回）会議録の確認について
 - (2) 第二次下野市総合計画基本構想（第2次素案）について
 - (3) 第二次下野市総合計画前期基本計画（素案）について（総論部分）
 - (4) その他
- 4 閉 会

○開会

（事務局） 定刻になりましたので第3回下野市総合計画審議会を開会する。

○会長あいさつ

（事務局） 開会にあたり中村会長からごあいさつをお願いしたい。

（中村会長） 本日は天気が荒れている中、ご出席いただき感謝申し上げます。本日の総合計画審議会では、基本構想の素案と前期基本計画の枠組みについての議論となる。そして、ほとんどの皆さんが「下野市の将来像」についての提案を提出していただいた。この後、事務局より基本構想の素案の修正案について報告を受けるが、この審議会での発言が相当反映されている。白紙から作り上げることはできないが、我々の意見を受けての事務局との調整の中で、多くの部分が変わってくる。そういった意味では、1回1回の審議会がとても大切であり、重い審議会である。時間の制限があり、1人当たりの持ち時間は少ないが、出来る限り多くの発言をいただき、皆さんの知恵をお借りしたい。本日もよろしくをお願いしたい。

○板橋副市長あいさつ

(事務局) 続いて庁内策定委員会の委員長である板橋副市長からごあいさつ申し上げます。

(板橋副市長) こんにちは。

台風11号が県内各地で被害をもたらし、4市町で家屋浸水が確認され避難勧告が出た場所もあった。そうした中で本市においては、特段の災害はなかった。台風が来るたびに、本市は自然災害が少ないと感じる。土砂災害の危険地域や街の中に都市河川がなく、途中の田んぼが調整池の役割を果たしており、本市が災害に強いことが強みであると改めて感じた。そうは言っても慢心してはいけないわけで、本日初動態勢訓練ということで、震度6強の地震を想定して、災害対策マニュアルを基にしっかりした行動が取れるかの訓練を実施した。結果は良好で、各対策本部会議で想定の被害情報の報告も円滑にできた。災害はいつ来るか分からないという気持ちで、本市の災害対策等も行っていきたいと考えている。

今回の審議会では、前回のご意見を受けて、庁内策定委員会で修正した素案をお示しする。将来像についても多くのご意見をいただいた。本日の審議会においてもご意見をいただきたいと思う。本日は基本構想に続いて平成28年度から5年間を対象期間とする前期基本計画、いわゆる具体的な施策の部分の導入部分と重点プロジェクトの考え方を説明させていただく。非常に急ピッチなスケジュールで進んでおり、委員の皆さんにはご苦勞をおかけしているが、未来に繋がる明るい下野市のために、是非ともたくさんのご意見を頂戴したいと考えている。

○議事

(中村会長) 本日の会議署名人を名簿順で高田委員と山口委員にお願いする。

(1) 前回(第2回)会議録の確認について

(中村会長) まず事務局より資料の確認を行う。

(事務局) 会議録については事前に委員の皆様へ郵送で配布し確認して頂いている。赤穂委員より修正の依頼があり、修正したものを委員の皆様へお配りしている。他にご意見等なければ確定をさせていただき、会長と署名人の委員に署名をお願いしたい。

(中村会長) 他にご意見等無いようなので、前回会議録について確定し承認とする。

(2) 第二次下野市総合計画基本構想(第2次素案)について

(中村会長) 本日は大切な点が2つある。1つは将来像である。今回の審議会で固める必要はないが、委員の皆さんより出していただいた意見のキーワードを組み合わせるなどして、より魅力的なものに仕上げたい。将来像の方向性が見えたら、事務局に案を提示してもらえと思うの

で、将来像の決定はしないまでも方向性が見えればと考えている。もう1つは基本計画である。中身はまだこれからだが、構成を形作るキーワードについて意見をいただければと考えている。まず、第二次下野市総合計画基本構想（第2次素案）についてということで、事務局よりその修正箇所について説明をお願いしたい。

- (事務局) 第二次下野市総合計画基本構想（第2次素案）について説明（資料1）
- 前回の審議会でのご意見等受けて、庁内策定委員会で協議し素案の修正を行った。修正した事項の中で大きな点について説明させていただく。
 - p 8の下野市の農業に関する動向の記載について、ご意見を参考にして先進的な取組に関する記載を追加した。
 - p 11の保健・福祉・医療に関する動向の記載について、「地域包括ケアシステム構築」の取組についての記載を追加した。また、ご意見を参考にして全国でもトップクラスの医療環境であることを修正して強調した。
 - p 35のコンパクトシティに関する記載については、面積の小ささや都市機能の集約、公共交通による地域間連携が図られていることから原案通りの記載とした。
 - p 36の農畜産物に関する記載について、かんぴょう以外にも県内トップクラスの生産量を誇る多様な農畜産物を生産しているとの記載へ修正した。また、ご意見を参考にして新たな農産物の産地化の取組みの必要性について記載を追加した。
 - p 37の下野市の弱みに関する記載について、弱みではなく課題に関する記載であるとして、文言を修正し統一した。
 - p 45について、保険や年金は国の制度であることから表現を変更した。

(中村会長) 修正内容についてご意見はあるか。

(塚原委員) p 11の全国的な動きの中で、少子化対策として「就学前の子供に関する教育」と記載があるが、なぜ「就学前」に限定したのかについてお聞かせいただきたい。少子化対策としては、不妊治療などトータルに考えていくべきではないか。この認識はどういった考えで記載されたのか。

(事務局) 全国的な動きとして認識しており、厚生労働省の白書の表現より引用している。ご意見については、今後検討をさせていただきたい。

(中村会長) それでは将来像についての議論へ移っていく。事前に提出していただいた提案をもとにご意見をいただけたらと考えている。

(磯部委員) 「文化交流都市」という言葉を使っている市町村は、調べたところ笠間市のみである。文化を通してたくさんの人が出入りする交流こそが大切であると考えて、「交流文化都市」という表現を提案した。「文化交流都市」だと、文化で交流するという印象が強くなってしまわないか。

また、将来像は「〇〇都市」で終わる形の方が良いのか。

(中村会長) 「〇〇都市」で終わる形でなければいけないわけではない。

(磯部委員) 将来像であるから、その形で終わる方が良いのかと思ったが了解した。

- (島田委員) 基本構想の p 2 1 と p 2 4 に、下野市の将来像に関するアンケートがある。「安全・安心なまち」など、このアンケート結果の上位に挙げられている項目についてもキーワードになるのではないかな。
- (中村会長) いま議論している将来像とこのアンケートにおける将来像は違うものなのではないかな。
- (島田委員) アンケートの中でパーセンテージの多いキーワードについて、根底に置いて議論すべきではないかと思う。これらを市民が望んでいるのではないかと考える。
- (小島委員) 前期基本計画（素案）の中に、「人いきいき」「街いきいき」「暮らしいきいき」といった言葉があったが、これはよいのではないかと思った。下野市の場合は、大規模な土地も無く企業誘致による人口増は難しいので、違う方向を考えなければならない。そこで地域資源は何かというと、自治医科大学があることではないか。総合医療の育成として全国から集まってきて、全国に戻っていくことで地域の活性化に貢献している。また、先進的農業の取組や他市町村から移住された方々、下野市役所に勤められている行政の方々を活かしながら地域活性化へとつなげていくことも重要である。
- 下野市に居住し市外へ勤めている方々も多いが、そのような方々がなぜ下野市を居住先として選んだのかをアンケートしてもよいのではないかな。
- それらを踏まえて、「人いきいき」「街いきいき」「暮らしいきいき」がよいのではないかな。
- (塚原委員) 進め方として、自分が事前に提出した提案内容を説明する形で進めていくのか、それとも提案全体をみて選ぶ形で進めていくのか。
- (中村会長) 私の意図としては、後者の方である。ご自身の意見はすでに提案として示されているので、提案全体をみてご意見を出していただきたい。
- (磯部委員) 「市民の幸福感」は大きなキーワードになると思う。とはいえ、幸せが既に出て上がっていたり、必ず幸せになれると約束したりするようなものではなく、人それぞれ異なる幸福感を最大化するような方向性を組み込めれば良いのではないかな。幸福を感じる背景には下野市の良さとしての福祉や教育、インフラがあると思うので、幸福感が増えていくような交流文化都市とすれば良いのではないかなと思う。
- (高田委員) 「幸せ」は気持ちの問題であり、人によって感じ方が違う。それよりも家庭・地域のつながりが大切だと思う。教育から導いていった方が良いのではないかな。近年は、今まで起きたことのない凶悪な事件が起きており、教育の過程から課題があるのではないかな。
- (鈴井委員) 私たちの街の社会資源のトップ、セカンド、サードは何かと考えた時に、安全・安心が入ってくるのは間違いない。安心や幸せも入れるべきだろうが、楽しさも入れてはどうか。また農業を通して食材が良くなっているから、それも入れるべきではないかな。医療環境もとても良

いから、健康もキーワードとして入れるべきではないか。メインタイトルとサブタイトルの両方で、全体を表現するという考え方で進めたらどうか。

(山口(貴)委員) 文化交流都市というキーワードにしても、いろいろな解釈が来て解釈違いが起こるようなものは、せつかくの将来像がおかしくなってしまう。もっとストレートにみえる言葉を使った方が良いのではないか。ふるさとや地元愛、郷土愛などみんなが認識できるような言葉を入れられれば良いのではないか。

(中村会長) 様々な解釈を盛り込んだ形にするか、ずばりストレートに示す形にするか、どちらもあるだろう。

(小島委員) 教育とは、小中高大だけでなく高齢者の教育も必要なのではないか。年少人口より高齢人口が増えている中において、高齢者も含めたトータルでの生涯教育が大切ではないか。そうしないと、いくら将来像を立てても浸透を図れない。人材育成としても、教育は大切である。

(中村会長) いきいきと暮らすために、教育が必要だということと理解した。

(川俣委員) 全部入れようとするややこしくなってしまう。皆さんの意見が網羅できるような文章があれば、それらを組み合わせればよいのではないか。

(中村会長) そうなると、副題は欠かせないだろう。様々な言葉をミックスすることは可能だろう。

(島田委員) この総合計画は市が市民に対して、どのようなまちづくりをするのかについて市民にアピールすると共に、市外の方々にも下野市をアピールすることになる。そのことを意識して将来像を考えるべきではないか。下野市でやすらぎを感じることができる、また教育を通して学び、それを活かす協働のまちづくりを通して生きがいを感じることが出来ることが大事ではないか。

(前原委員) 固い言葉を使うのではなく、自然の中でお年寄りと言葉を交わすようなほのぼのの姿が、下野市の隅々でみられるようなまちになっていかないといけないのではないか。それができれば、子どもは知恵を身につけ、お年寄りは健康寿命が延びることになる。それが、医療費の軽減につながる。その意味で、遊びを前面に出した方が良いのではないかと考えている。

(小幡委員) 中高生のアンケートで、下野市への居留意向について、「できれば住みたくない」が中学生は18.3%、高校生は37.1%ということで、この回答を将来像へつなげられたら良いのではと考えている。「どうなれば住み続けたいと思うか」という質問に対しては、働く場所があり、買い物が便利ならば、ということだから、やはり生きがいや笑顔といったところへつながり、ひいては幸福へと続いていくのではないか。その意味で、生きがいや笑顔といった言葉を入れた方が、未来を託す子どもたちへの希望の将来像、下野市になるのではないか。

(山口(富)委員) 私は農家をやっているが、毎朝小学生には大きな声であいさつする

子と出来ない子がいる。そこで、あいさつが言えるまちにしたらどうか。

(中村会長) 字数が限られているから、むしろずばり言った方が良いのではないかとということと理解した。

(佐間田委員) 提案をみると、幸せや幸福が多いから、それを入れたほうがよい。難しい文字を並べられても、難しいまちだなという印象をもってしまう。それで、結局何をやっているのか分からなくなってしまうから、分かりやすいキャッチフレーズの方が良いのではないか。

(前原委員) あいさつは、する側もされる側も気持ちが明るくなる。だから、あまり難しい言葉で幸せを追求するのではなく、あいさつでも幸せへとつながる。

(中村会長) あいさつを挙げると、どちらかということ市民憲章の方に近いのではないか。基本計画となると、いかに進めていくかといった部分も必要になってくる。

(大島委員) 下野市は、医療面は充実しているから身体面では保たれているだろうが、あいさつのお話しをはじめとした健全な精神という側面も重要ではないか。そういった、複数の要素を含めて健康という言葉を入れられないか。

また、若い人を引き付けられるキーワードを掲げたらよいのではないか。

(鱒淵委員) 住む人たちが幸せで、笑顔があふれて、健康で明るく生活できるような下野市にすることで、人が集まっていく。シンプルで分かりやすいという意味で、家族を強調したものにしたらどうか。

(高田委員) 下野市の強みをアピールして、自慢できるようなものにしたらどうか。それによって、楽しい街につながっていくのではないか。

(高山(信)委員) 情報が多様化していて、考えなくても調べれば情報が得られる。だから、なぜ下野市なのかということを考えてもらえるような表現にしたらどうか。

(大塚委員) 私は引っ越しが多くいろいろな所に住んできた。最初にここに着任した時の第一印象は、皆さんがあたたかい人たちだったということ。その思いも入れられたらどうか。国分寺が建てられたような、天災が少ないという地の利を活かしたい。

(事務局) 皆さんからいただいたご意見や提案を基に、事務局でいくつか案を考えさせていただきたい。そして、次回の審議会で提示させていただく。

(中村会長) それでは将来像についての審議は本日一旦終了し、続いて次の議題に移る。

(3) 第二次下野市総合計画前期基本計画(素案)について(総論部分)

(中村会長) 続いて第二次下野市総合計画前期基本計画(素案)について事務局より説明をお願いします。

- (事務局) 第二次下野市総合計画前期基本計画(素案)について説明(資料2)
- 基本構想に掲げている将来像を実現するための施策体系を示すとともに、施策の目的や方針、主要事業などを明らかにするものである。
 - 第1章では、第1節で基本計画策定の趣旨、第2節で基本計画の期間、第3節で基本計画の構成について整理している。施策概要からの文章は、構成する内容のフォーマットを検討中のため、それに合わせて修正していく。
 - 第2章では、施策体系図と基本施策を示している。基本施策は、今後決定していく個別施策を整理してまとめていく。
 - 第3章では、前期の5年間で特に重点的、戦略的に取り組む施策を重点プロジェクトと位置付け明確にした。重点プロジェクトは、「人いきいきプロジェクト」、「街いきいきプロジェクト」、「暮らしいきいきプロジェクト」の3つで構成している。各プロジェクトに記載している事業については、今後個別施策も事業から選定して提示していきたい。
- (中村会長) 重点プロジェクトの構成やその文言について中心にご意見をいただければと考えている。
- (山口(貴)委員) p8の「街いきいきプロジェクト」の中の取組について、商業という言葉も入れるべきではないか。
- (磯部委員) p8の3行目に「人や企業に選ばれる産業環境づくり」とあるが、何かプロジェクトを仕掛けていかないと進まないのではないか。
- (板橋副市長) 市の弱みは産業である。前回の総合計画においても指摘を受けたが、現在5つの工業団地は満杯である。今は新たな工業団地づくりを考えている。可能性調査をして、工業団地でなく単独立地でもよいので、土地利用計画が調整できればと思う。工業団地は時間がかかるので、ロケーションの良さを活かした単独立地も検討している。都市計画の見直しも進めていきたい。これをやらないと若者が定着しないというジレンマに陥っている。一つの例として新国道4号線ができて6車線化した大動脈なのに、その効果が下野市に波及していない。開発できそうな土地はあるので、そこに狙いを定めて調査を進めようとしている。そういう部分を何とかやっていきたいという思いが、「人や企業に選ばれる産業環境づくり」に込められている。立地企業に聞くと、下野市は、災害が少ないこと、東京に近接していること、製品輸送の大動脈としての一般道も通っており物流もできることが挙げられていた。又、自治医科大学と連携しているいろいろなのではないかと考えている。そのようなことを取組としての施策にも書いていきたいと考えている。
- (小島委員) p7の重点的な取組に生涯学習も入れてほしい。社会教育委員をやっているが、趣味としては多いが、まちづくりへの参加が少ない。そうした土壌をつくっていかないと市民の中に人材が生まれない。だから大人の学び直しという意味での生涯学習を推進してほしい。
- (磯部委員) 重点プロジェクトにも関わらず全てを指してしまっているのではない

か。この中のどれが重点的に取り組むものなのか。

- (事務局) 今示している具体的な取組は、大きな捉え方として入れている。実際は各課と調整し重点的に取り組む個別事業を挙げていく予定である。
- (塚原委員) 私たちは何を考えていけば良いのか。様々な市の計画について、どこに何をを入れて整合性を図っていけば良いのだろうか。
- (板橋副市長) 今の後期基本計画にしもつけ重点戦略というものがある。そこから重点戦略というものが始まった。今は人と資源に限界がある中で、必ずこれだけはやらなければならないというものを決めるということで、重点戦略をつくった。そのようなものに対しては、優先的に予算を配分する。市の事業が500ほどある中で、国から義務付けられている仕事と、市民からの提案に基づくものもある。下野市のために必要なものは重点戦略として挙げさせていただいている。今回も500ほどある事務事業の中で、この5年間で何としても実現したいものについて、5つくらいに絞り込みをしてやっていきたいと考えている。今は細かいものがたくさん挙げられているが、今後は光り輝くものを1つずつ掲げてやっていきたい。
- (鱒淵委員) 家を建てやすい環境づくりを重点的にやっていくべきではないか。
- (中村会長) ニュータウンの形成のようなものか。
- (高山(信)委員) これから高齢化が進む中で、救急医療に関して今の台数のままよりも救急車の台数を増やす方が良いのではないか。医療だけでなく、輸送も充実していくべきではないか。
- (鈴木委員) 医療福祉の充実は、地域包括ケアシステムとして国からも言われていることだから、やらざるを得ないことであり、既にやっている。
- (高田委員) 新しい市役所をいかに活用するのかについて、項目の中に盛り込んでみたらどうか。
- (中村会長) 地域包括ケアシステムは既に実行されているが、それと併せて救急車の問題も考えていかななくてはならないということだろう。
- (磯部委員) 救急医療体制の充実の中には、休日夜間の診療は入っているのか。
- (板橋副市長) プロジェクトは6つほど挙がってくる。今回は行政の方でフィルタリングせず取組を挙げている。どういうことをやったら下野市が伸びていくのかを議論していただければ、それを反映させていきたい。
- (中村会長) 記載項目例は置いておいて、3つのプロジェクトという枠組みについて、何を重点に置きたいか。
- (小島委員) もっと情報発信をしていくべき。広聴・広報の充実をやってほしい。
- (島田委員) 「人いきいき」とは、地域で助け合って人々のつながりを大切にする、ということを入れてほしい。「街いきいき」なら安全安心といった要素を、「暮らしいきいき」なら、みどり等の自然を守っていくという要素を入れてほしい。
- (中村会長) 自治会等の地域コミュニティを再度見直すことは重要かもしれない。

自治会機能の再発見も行われ始めている。

(大島委員) 栃木県は、男性の健康寿命が全国5位である。下野市として、高齢化社会を迎えるにあたり、健康寿命全国1位を目指す取組を掲げてはどうか。自治医大もあるわけだから、健康に健やかに暮らしていけば医療費の抑制にもつながる。

子どもたちに、郷土の歴史と伝統を知識として教えて郷土愛を持ってもらうことで、将来も住んでもらいたいということを、今後の教育において重点的に取り組んでいくことが大事ではないか。

(中村会長) 3つそれぞれの重点プロジェクトに一本の筋を通すことは、外から見るとまちの魅力となっていく。それが、将来像等へもつながっていくから、チャンスになるのではないか。
重点プロジェクトの設定については審議会としても異論はないと考える。本日は、様々な意見を出してもらう形の審議会となったが、以上で第二次下野市総合計画前期基本計画（素案）についての審議を終了する。

(4) その他

(中村会長) 続いてその他として事務局から次回の日程等について説明願いたい。

(事務局) 次回の第4回審議会は、当初予定通り8月7日に開催する。

(中村会長) 本日の議事はこれで終了し、事務局に司会をお返しする。

○閉会

(事務局) 以上をもって第3回下野市総合計画審議会を閉会する。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長

署名委員

署名委員